

# 初めての植物観察通信・晩春編 H.26年5月17日開催

先日はお疲れ様でした。暑くも寒くもなく最高の天気でしたね。心配された蚊の襲来も、思ったほどではなくてよかったです。今回は、おもに山の中の春の植物を観察してみました。

前回の春編にご参加くださった方には、実感いただけたかと思いますが、春は一月違うと植物の様子が全く変わってしまいます。それだけに、春は植物から目が離せないなぁと実感します。

さて、当日見られた植物につきまして備忘録的にメモを作りましたのでお送りします。私の不勉強からわかりにくかったり、また、間違っていたりすることも時々(しばしばかも?)あるかと思いますが、そういったものは、この通信で訂正補足させていただきます。

まず、本日最初に観察したのは、クスノキでした。いつもこの木を観察するのですが、今回は花盛りでしたね。木の葉は3本の脈が目立っていましたね。植物の葉を観察するには脈の走り方、葉の縁の鋸歯、葉柄の長さなどが大切でした。

次に博物館の建物を抜けて、カスケード沿いで観察しました。ここでは、真っ白な花をたくさんつけたマルバウツギが花盛りでしたね。葉の下の葉にほとんど柄がないのが特徴です。雄蕊の花糸が平たくなっているのが変わっていましたよね。星状毛がはえている話もしましたが、これは電子顕微鏡で植物を見る行事がありますので、そちらでご覧下さい。続いてハクチョウゲを見ました。アカネ科らしく托葉が目立っていましたね。林の縁では、シラスゲを観察しました。先端だけが雄の花序でしたね。山裾では、ナガバタチツボスミレを見ました。これからの時期は、閉鎖花と言って、蕾のまま大きく開いた花をつけなくて、果実を結びます。小さなシソ科のトウバナを見ながら山道を進み、コガクウツギを観察しました。装飾花と両生花がありましたね。両性花の花弁の形を見るのが重要なポイントでした。それから、山を登りはじめ、変わった形のスゲの仲間、マスクサを観察しました。峠付近では、モチツツジが見られました。例年ですと花盛りの時期ですが、今年は今ひとつでした。花の柄や萼、葉などがとても粘っていましたね。これは、腺毛という毛があって、先端から粘る液を出しているからでした。



マルバウツギ



ハクチョウゲ



シラスゲ



ナガバタチツボスミレ



トウバナ



コガクウツギ



マスクサ



モチツツジ

峠を越えると、咲き残りのジウニヒトエが咲いていました。さらに進んで県民の森では、イヌシダが崖から垂れ下がっていましたね。付近には、スズメノヤリも生えていました。ここで種子を観察できたのは、良かったなと思います。種子に種枕（エライオソーム）と呼ばれるものがついていて、蟻がこれを好んで持ち運ぶことで、種子を遠くに運ぶのでしたね。また、シランも花盛りで薬柱から花粉塊が見事に外れてくるのを体験できたかと思います。ジシバリも満開で、さらに下るとコバノタツナミも花盛りでした。これを浪に喩えたのは、趣があるなと思います。最後にヤマボウシの花を観察して、噴水に戻りました。



ジウニヒトエ



イヌシダ



スズメノヤリ



シャクナゲの仲間（植栽）



シラン（植栽）



ジシバリ



コバノタツナミ



ヤマボウシ

## 質問コーナー

行事の間に頂いた質問にお答えします。ご不明の点は、メールなどでもお問い合わせください。

**Qクスノキの花の作りはどうなっていますか？**

A：ちょっと複雑です。まず花被片が6枚あります。花被片とは萼と花瓣を区別しない場合の言い方です。その内側に、雄蕊は12本あります。3個ずつ4輪になっています。この一番内側の3つは、不完全なので仮雄蕊と呼ばれます。その仮雄蕊の内側に黄色い腺体があります。そして、中央に雌蕊が一本あります。また観察してみてください。

**Qウラシマソウの花はいつ咲く？**

A：今回は、葉ばかりでしたが、春の観察会では、開花しているものもありました。花の時期は、春ですが、まず葉が出て、それから花が出るようです。また、ウラシマソウは、株が小さい内は、雄の花を咲かせますが、株が大きくなり充実すると雌の花を咲かせます。

お問い合わせは以下まで。

〒770-8070 徳島県徳島市八万町徳島県立博物館 Tel 088-668-3636 F A X 088-668-7197

茨木靖（いばらぎやすし） Ibaragi-yasushi-1@mt.tokushima-ec.ed.jp

徳島県立博物館では、学芸員は交代勤務ですので年末年始以外は、誰かが居ります。植物については私が不在の場合、小川上席学芸員がいれば、ご質問にお答えできます。お気軽に博物館にご連絡ください。メールも大歓迎です。